

平成26年全国町村長大会 来賓挨拶

地方創生担当大臣の石破でございます。この度の解散の意義は、先程、安倍総理大臣からお話のあった通りでございます。私どもにとって、選挙は国民の皆様方に信を問うものでございます。事務を取り扱っていただく町村長の皆様方、あるいは役場の皆様方には、年末の時期に大変なご面倒をおかけすることになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は国会議員になって29年目になります。地元は鳥取県で、人口は58万人くらいの日本最小の人口の県でございます。兵庫県との境にあります八頭郡というところが、私の地元でありまして、今は合併して八頭町となっておりますが、郡家町という人口1万人くらいのところの育ちでありまして、幼稚園、小学校、中学校と鳥取で過ごしてまいりました。

昭和40年代の半ばから50年代にかけて、地方がとても元気だった時代があります。本当に町に活力があり、村に活力がある。そういう時代を私は確かに覚えております。おそらくそれは、公共事業と企業立地によるものが大きかったと思っております。これから先もその政策は進めなければなりません、企業立地は、一番多かった時の六分の一に減りました。国の借金は1,000兆円を超しております、公共事業を以前のように基幹産業とするのは極めて難しいと思っております。

総理が申しますところの3本の矢のうち、大胆な金融緩和、そして機動的な財政出動により、確かに、地域の重苦しかった雰囲気は少し改善されたということですが、では地方の賃金は上がったか、物価はどうなったか。それを考えた時に、これも総理がよく申すことですが、新しい経済政策の効果が地方まで行き渡っていないことは歴然たる事実であります。

私どもとして、地方が持っている活力、即ち農業であり、漁業であり、林業であり、そして観光であり、この活力をいかにして最大限に引き出していくか。これが地方創生だと思っております。皆様方のお手元にある「田園回帰の時代を迎えて 都市と農村の共生社会の創造」という提言ですが、私はこれを読んで、本当に良い文章だし、よく考えていただいたと思っております。いつの時代も、国を変えるのは地方であり、中央ではありません。

我が国は、円が高くなった、安くなったと言っては大騒ぎであります。どうしてそのようなことに振り回される国になったのか。それは、食料・エネルギーの大半を海外に依存しているからであります。食料にしてもエネルギーにしても、それは地方にあります。その力を最大限引き出すことが、我が国が自立に向かって進み出す、大きな礎になるはずで、食料自給率だけが大事なのではない。大事なのは農地であり、

農業従事者に次世代の後継者がいることであり、そしてインフラがきちんと保全され、品質がさらに高まることであります。

今日、参議院で地方創生委員会が開かれます。地方創生関連法案について、何とか解散までに成立をさせていただきたいと心から願っております。あの法律は、全ての市町村に我が町を、村を、5年以内にどうするかという総合戦略の策定を努力義務として規定したところがポイントであります。地域のことは永田町や霞ヶ関ではなく、地域でなければわかりません。全ての市町村に、その総合戦略を作るというお願いをしております。政府として出来る限りの情報を提供させていただきます。どこから物が来てどこへ出て行く、どこから人が来てどこへ出て行く、お金はどこから入りどこへ出て行く、そういうことを精密に分析をした資料を全ての市町村に差し上げます。そして人材派遣について、今まで国家公務員をあちらこちらに派遣をしてきましたが、人口5万人以下の市町村には殆ど派遣しておりません。霞ヶ関が町村にとって親切的な相談相手だったかといえ、必ずしもそうだったとは私は思っておりません。霞ヶ関挙げて、町村の良き相談相手になっていかなければなりません。そして人材も、知恵も、情報も、可能な限りお手伝いしてまいります。

今を生きる我々は、次の時代にいかなる日本を残すか、その責任を負っております。そして課題先進国である我が日本は、これからどういう国家を作るのかという、課題に対する解決を示す責任を、世界に対して負っております。税の仕組みについても、また財源保証機能、財源調整機能にしても、地方交付税が持つ仕組みはこれで充分なのかということも総務大臣と意見交換するとともに、町村の皆様方のご意見も伺ってまいります。

今までも列島改造、田園都市構想、ふるさと創生と様々な取り組みがありました。今度の地方創生は、もう後がないという危機感と、それに対し国と地方が一体となって取り組もうという連帯感。そして世界に対して、次の時代に対して負うべき責任感。以上の点で今までの取り組みとは違うものだと思っております。政府で出来ることは最大限のことをさせていただきます。どうか共にこの国を、山を、川を、そして海を、次の時代に残すために、手を携えて取り組んでいただきますよう、心からお願いして挨拶を終わります。ありがとうございました。

平成26年11月19日

地方創生担当大臣

石 破 茂